札幌恵庭自転車道線　恵庭工区
延伸ルート検討

提　言　書

平成２２年１２月

札幌恵庭自転車道線　恵庭工区　延伸ルート検討委員会

はじめに

札幌恵庭自転車道線は、札幌市豊平川河川敷を基点とし、東札幌などの住宅地やＪＲ北広島駅を通過して、ＪＲ恵庭駅を終点とする総延長約３２Ｋｍの自転車と歩行者が利用する道路で、現在、札幌市白石区の札幌コンベンションセンターからＪＲ北広島駅までの約２０ｋｍが供用されています。

この自転車道線は、多くの人々に利用され、終点のＪＲ恵庭駅までの早期開通が、待ち望まれています。

～水・緑・花・人がふれあう生活都市えにわ～のまちづくりを目指す、恵庭市の自転車道の骨格は、市民生活の中心となる恵庭・恵み野・島松の３拠点を結び、まちづくりの一環として自転車、歩行者、そして車椅子の人々にとって交通安全が確保され、安心して暮らせるサイクリング・ロードになるよう検討を重ねてきました。

更には、サイクリングのみならず、１年を通じて利活用できる複合的な休憩施設の整備、利活用方策、市民自ら行う管理方策など、市民生活の中で一つひとつ歴史を刻みながら「自転車道えにわ物語」を後世に残す施策も盛り込んでみました。

一方、恵庭市内の自転車道路は、住宅団地内の自転車歩行者専用道路、漁川河川敷サイクリングロードなどが整備されているものの、市内を縦貫する自転車道がないので、この自転車道が縦貫すれば、既存の自転車道や地域のネットワークが図りやすくなり、散策や自転車利用による健康増進、まちの再発見、周辺地域から来訪する自転車道利用者による交流人口の増加など、その活動はまちづくりに繋がっていくことが期待でき、その整備効果は計り知れないものがあります。

本提言は、恵庭市より札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート検討委員に委嘱された１３名が、平成２２年３月から同年１２月までの９ヶ月間、自転車による候補ルートの現地視察検討を行いながら７回の委員会で議論を重ね、利活用や管理のあり方など、「より望ましい自転車道の姿」をまとめ、更に「今後に向けて」を追記し提案することとします。

なお、この委員会を立ち上げるに、１１名もの一般公募委員の応募があり、自転車道についての市民の関心が高く、市民ニーズにどのように応えることができるか……その想いを念頭に置きながら協議を重ねてきたことを、ここに付け加えさせていただきます。

最後に、北海道大学大学院工学研究院、岸准教授には、その都度、適切なアドバイスをいただき、立派な提言内容になりましたことに対し、委員一同心から感謝を申し上げます。

そして、委員の皆さん！関係の皆さん、本当に熱い議論を交わし、その熱意に対し厚くお礼を申し上げますと共に、早期に完成できることをご期待申し上げ挨拶とします。

平成２２年師走

札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート検討委員会

委員長　泉谷　清

提言にあたって

この提言書は、札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート検討委員会において、７回にわたって議論を重ねてまとめたものです。

委員の皆さんひとりひとりが自分の思いをルートに表した結果、なかなかひとつのルートにまとまりませんでした。しかし、泉谷委員長は強引に決めるのではなく、改めてみんなで現場を見に行こうと提案されました。

実際に自転車でルート候補地に行くことで、ルートとして適切な場所、あるいはルートにするには厳しい場所が見えてきました。もちろん、決めるルートはひとつですので、すべての人の希望を満たすことは不可能です。しかし、委員の皆さんが、一人勝ちではなく、他のメンバーが支持するルートの長所も尊重することで、多くの市民の皆さんが安全・快適に利用してもらえるルートがまとまりました。このプロセスこそが、まさに合意形成です。そして、ルート選定にとどまらず、今後恵庭市がすすむべきまちづくりの観点から自転車道の活用方策も提言されました。泉谷委員長をはじめとして、委員の皆さんに心から敬意を表します。

行政が山なりで投げた「ボール」を委員の皆さんが受けて、市民の思いを込めて、行政に対してど真ん中の直球(提言書)を投げ返しました。今度はそれを受けた行政側が大きな責任を持つことになります。建設に際して、北海道と恵庭市で協議や調整が必要になってきます。既存の制度や枠組みにとらわれず、恵庭市から全国に新たな自転車道整備のあり方を発信できるよう、連携して進めていただくことを強く要望いたします。

そして自転車道が完成したときには、その自転車道を「育てていく」のは市民の皆さんです。単なる自転車や歩行者が通る道路ではなく、恵庭市のまちづくりに貢献するものになるかどうかは、市民の皆さんにかかっています。しかし、今回の委員会での熱い議論を通して、私はそれも心配ないと確信しました。

たくさんの可能性を楽しみにしながら、自転車道の開通を待ちたいと思います。

平成 22 年 12 月

札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート検討委員会　アドバイザー
北海道大学大学院工学研究院　准教授
岸　邦宏

目　次

１．検討委員会の開催状況 …… 1

２．恵庭工区を取り巻く環境 …… 3

３．延伸ルート …… 6

４．整備方針 …… 11

５．整備イメージ …… 12

６．利活用方策 …… 16

７．管理方策 …… 18

８．今後に向けて …… 19

１．検討委員会の開催状況

「札幌恵庭自転車道線　恵庭工区　延伸ルート検討委員会」は、委員１３名、アドバイザー１名の合計１４名で、「ルート」、「整備方針」、「整備イメージ」、「利活用方策」、「管理方策」について検討した。

第１回検討委員会が平成２２年３月２４日、最終回となった第７回検討委員会が平成２２年１２月 20 日に開催され、本提言書をとりまとめた。

	委員会　実施内容
平成 16 年 2 月 札幌恵庭自転車道線 事業化決定	
平成 22 年 2 月 1 日 公募委員　募集	
平成 22 年 3 月 24 日 第１回検討委員会	・札幌恵庭自転車道線整備について ・検討事項の確認について
平成 22 年 5 月 27 日 第２回検討委員会	・バスによる現地視察 ・談話（北大大学院　岸准教授） 「道道札幌恵庭自転車道のルート検討について」 ・ルート案について ・整備方針について
平成 22 年 7 月 22 日 第３回検討委員会	・ルート案について ・整備方針について
平成 22 年 9 月 21 日 第４回検討委員会	・ルート案について ・整備方針について ・整備イメージについて
平成 22 年 10 月 2 日 自転車による現地視察会	・視察後の意見聴取
平成 22 年 10 月 22 日 第５回検討委員会	・ルート案について ・整備方針について ・整備イメージについて ・利活用方策、管理方策について
平成 22 年 11 月 25 日 第６回検討委員会	・提言書案について ・利活用方策、管理方策について ・今後に向けて
平成 22 年 12 月 20 日 第７回検討委員会	・提言書について

委員会開催日程及び検討内容

委員会委員

役　職	氏　名	所属団体等
委 員 長	泉谷　清	NPO えにわ市民プラザ・アイル
副委員長	喜多　昌幸	一般公募
委　　員	内田　信一	恵庭観光協会
	鏡　　貢	恵庭市町内会連合会
	川向　康文	恵庭市小中学校長会
	木内　克昌	恵庭商工会議所
	竹内　栄	恵広自転車商業協同組合
	丹伊田 哲也	NPO 恵庭市体育協会
	藤本　治聖	恵庭ライオンズクラブ
	掛水 美枝子	一般公募
	永井　晋二	一般公募
	久村　隆一	一般公募
	平野　哲雄	一般公募
アドバイザー	岸　邦宏	北海道大学大学院工学研究院　准教授

第 1 回検討委員会（委嘱）

第 2 回検討委員会
（グループに分かれて意見交換）

視察会

第 6 回検討委員会（提言書案確認）

委員会開催状況